5 Rd.

AUG 2011

Japan RACING PRESS

2011 AUTOBACS SUPER GT ROUND5
40TH INTERNATIONAL Pokka GT SUMER SPECIAL

2011 SUPER GT

Round 5 SUZUKA 8/20-21

Text
島村元子

Photo
鉄谷康博
加藤智充
中村佳史

Editor
吉川絹恵
小澤克仁
近江　勤

伝統の鈴鹿1000kmは500kmへと様変わり！

SUPER GT第5戦鈴鹿は、8月20-21日に開催。かつて「鈴鹿1000km」として名を馳せた伝統のレースは今年で40回目。近年は世界的な経済状況、そして今年は大震災の影響を受けて、ついに500kmへと様変わりしたが、シーズン最長の戦いとして繰り広げられた。レースウィークはほぼレインコンディション。時折土砂降りの雨になるなど、真夏の暑さには程遠いものだったが、レースそのものは最後まで波乱含みの“ホット”な展開になった。

ディフェンディングチャンプ、今季2勝目をあげる!

ポールポジションは300・500クラスとも前回SUGOと同じ車両が顔を揃えた。GT500はそのNo.46 S Road MOLA GT-R(柳田真孝/R・クインタレッリ組)がポテンシャルの高さを大いに発揮、序盤をリードした。GT500では、途中小康状態の中で、No.1 ウイダー HSV-010(小暮卓史/ロイック・デュバル組)が先行。雨が止んだ終盤、スリックタイヤでのギャンブルにかけた46号車が怒涛の追い上げを見せて1号車に大接近! 逆転が間近に迫ったが、再び雨が落ちて万事休す。先に1号車がシーズン2勝目をあげることに。だが、ランキングではトップ死守に成功している。

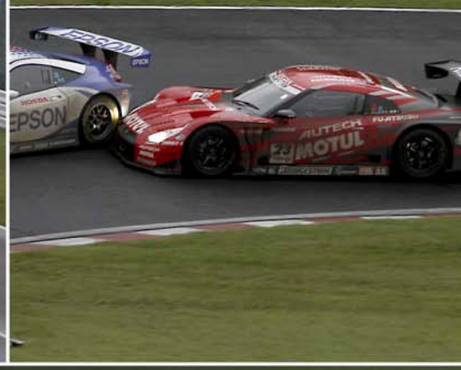
[GT500 決勝結果]

優勝	1	ウイダー HSV-010	小暮卓史/I.デュバル
2位	46	S Road MOLA GT-R	柳田真孝/R.クインタレッリ
3位	12	カルソニック IMPUL GT-R	松田次生/J-P.デ・オリベイラ
4位	23	MOTUL AUTECH GT-R	本山 哲/ブノワ・トレルイエ
5位	39	DENSO SARD SC430	石浦宏明/井口卓人
6位	36	PETRONAS TOM'S SC430	アンドレ・ロッテラー/中嶋一貴

GT500

SUMMER SPECIAL
NISSAN
GRAN TURISMO
ADVAN
POKKA
1
2
3

3rd
calsonic
IMPUL
Mobil 1


EPSON
AUTECH
MOTUL

GT300は、No.43 ARTA Garaiya(高木真一/松浦孝亮組)がポールから好走。だがレース中盤に入ってから、両車の勢いに暗雲が立ち込める。路面状況と装着したタイヤとの相性によって、思うようにペースアップできず、少し歯車が狂い始めたのだ。43号車に赤ランプ。なんと終盤にマシントラブルが発生、そのままクルマを止め、代わってNo.62 R&D SPORT LEGACY B4(山野哲也/佐々木孝太組)が勝利した。

[GT300 決勝結果]

優勝	62	R&D SPORT LEGACY B4	山野哲也/佐々木孝太
2位	33	HANKOOK PORSCHE	影山正美/藤井誠暢
3位	87	リール ランボルギーニ	余郷　敦/織戸　学
4位	11	JIMGAINER DIXCEL DUNLOP 458	田中哲也/平中克幸
5位	4	初音ミク グッドスマイルBMW	谷口信輝/番場　琢

スバル今季初優勝!

THE FACE

CLOSE-UP

Ryo MICHIGAMI 道上 龍

Text by M.Shimamura

Photo:Yasuhiro Tetsutani

ベテランならではの粘りと走り タイヤ開発を担い、なおも前進する!

2年前、ホンダ勢に待望のニューマシン、HSV-010がリリースされたと同時に、道上は童夢からナカジマレーシングへと電撃移籍。それまで童夢でホンダのマシン開発を一手に引き受け、多くのデータをフィードバックしてきたが、新たなチームでは、ダンロップタイヤの開発という大きなミッションが彼の肩にのしかかった。SUPER GTでのチャンピオン経験を持つドライバーがチームを移籍すること。これは大きな賭けでもある。新境地の開拓ともいえる反面、相当なパワーを必要とする。ましてやGT500クラスにおいて、タイムという数字に大きな影響を与えるタイヤ開発が求められるという。今のSUPER GTにおいて、黒くて丸いものは勝敗を大きく左右する要素であることは言うまでもない。この時点でのダンロップタイヤは、お世辞にもそのパフォーマンスに十分な太鼓判を押すことは難しく、道上にとってはまさに荒波の海へ船を漕ぎ出すに等しい状況だったのだ。

だが、ミドルフォーミュラからフォーミュラ・ニッポンへとステップアップした後、チーム一丸で戦闘力の劣るマシンをセットアップし、ライバル達に一泡吹かせた経験を持つ道上は、粘り強く戦いを続けてきた経験もある。SUPER GTにおいても限られたテストの中でデータを蓄積し、根気良くタイヤ開発を続けてきた。それが、ついに第4戦SUGOで花開くのである。

雨を味方に着実な走りに徹し、3位をゲット。チームに久々の表彰台をプレゼントした。続く第5戦では出入りの激しい展開になったが、途中、巧みなテクニックを披露し、ライバルたちを次々にパス。レースを大いに盛り上げ、場内を沸かした。進むタイヤ開発によって再びチャンス到来のときには、表彰台の真ん中が見えてくるはずだ。

[ドライバープロフィール]

1973年3月1日、奈良県生まれ。父が元レーシングドライバーで、幼い頃からレーシングカートに勤しみ、1991年には4輪にデビュー。以後、全日本F3選手権をはじめ、N1耐久レースやツーリングカー選手権、JGTC、フォーミュラ・ニッポンに至るまで、国内のカテゴリーをほぼ網羅している。GTにおいては、2000年にシリーズタイトルを獲得。2010年、童夢での11年間を経てナカジマレーシングに移籍。